

ケアセンターけやき

齋藤 紀子 / 居宅介護支援 / ケアマネジャー

- 功 績** 居宅管理業務を積極的にサポートし、他ケアマネ達への周知と信頼の獲得にも尽力されてきた。竹川病院をはじめとしたケースの依頼や困難ケースも受け入れ、かつ、同法人内へのサービス紹介も進んでいけやき全体の稼働率向上に貢献した功績。
- 推 薦 者** 井本哲吉（ケアセンターけやき 居宅介護支援事業所 管理者）
- 推 薦 理 由** 常に居宅全体の運営の事も考慮しながら業務に携わる姿勢、および、新規の紹介ケースはけやきの信用向上の為に、と積極的に受ける姿勢を貫かれてきた。自分の仕事に偏りがちなケアマネジャーの習性を越えてワンチームを体現したきたことを理由として、理事長賞に推薦いたします。

内 容

齋藤ケアマネはケアセンターけやき居宅介護支援事業所創世期職員として実績を積み上げてきたが、出産を期にパート職員として通所リハ相談員として勤務。その後、令和4年2月、当時の管理者退職などで居宅の人員不足が危ぶまれると、再度常勤ケアマネジャーとして勤務する事を即決してくれました。お子様の状況も落ち着いていたかは定かではないですが、快く引き受けて頂き助かったと共に、法人に貢献できるのであればという帰属意識の高さに関心した事を覚えています。また、即戦力であったことに加え、今までの経験値の高さにより管理者のサポート業務も積極的に行って頂き特定事業所加算などの加算算定管理も協力して頂きスムーズな運営に協力頂きました。

ケアマネとして復帰後すぐに、紹介兼ねて挨拶回りに回ると地域包括支援センターから「齋藤ケアマネなら是非頼みたいケースがある」と困難ケースであったようであるが依頼が続き、更に信頼を深くしていった気がします。また、施設内サービス紹介率90%とけやき内のサービスを活用し施設全体の運営にも積極的に貢献しています。

そんな中、娘が母親に対して暴力を振るう、明らかな虐待ケースにもかかわらず包括支援センターが及び腰であり改善されなかったケースでは、自らが盾になりご利用者を守り抜き、包括支援センターに逐次報告を続け、最終的には行政を動かし解決(保護)に至ったケースや、ある時は、認知症独居ご利用者による猫の多頭飼育崩壊の現場を引き受けた際、「ノミが無数に湧いており他のご利用者に影響必至」との理由で、デイサービス、訪問介護などの全サービスが一時撤退し、孤立化した際、遠方のご家族への協力依頼や各事業者に対しては妥協案の提案を真摯に行い、自らは買い物や安否確認などを行うなど親身な対応を続け、ついに訪問介護の条件付き介入（買い物支援）にこぎつけた…など決してくじける事無く進んで取り組まれてきました。個人プレーに偏りがちな居宅介護支援部門に於いて、公私ともに「親身な対応」を心から体現している姿は理事長賞に値すると思ひ推薦致します。